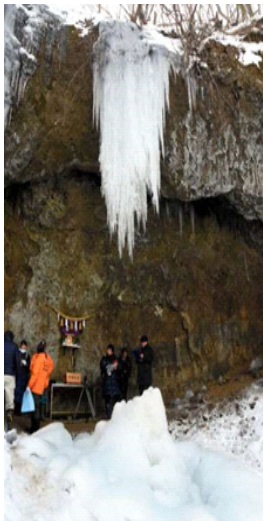
vol.563

mj "高は高才、信は信頼、情報はマック"
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

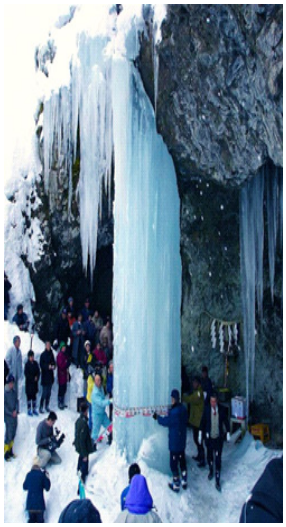
◆ 2020年3月25日発行ラインナップ
・米どころに雪がない！心配される水不足
・農業関連視察　in 北陸

米どころに雪がない！心配される水不足

暖冬の影響で3月15日に東京で桜の開花宣言となり観測史上最も早いソメイヨシノの開花となった。東京から東北方面に出張すると新幹線沿線で例年と異なる光景がほぼ青森まで広がっている。雪が例年に比べて異常に少ないように思えてならない。写真は2月21日の青森県JR五能線の鶴伯―板柳間の岩木山を望む夕暮れの車窓だ。この時期は毎年一面の雪景色が広がっているのだが、今年に限って田んぼの地面が見えているのだ。報道でも耳にしたのだが、観測史上最も冬期の気温が高かったという。スキー場や雪まつり等では雪不足が深刻で雪を集めるのに一苦労している現状が報告されていた。まだ東北6県の中で比較的降雪量が多い岩手県の方の話を聞いた。岩手県花巻市石鳥谷町の「たろし滝」で毎年2月11日につららの太さで米の作柄を占う計測会が行われている。「たろし」とは地元の言葉でつららのこと。本年は暖冬の影響でつららが地面まで届かず、3年ぶりの「計測不能」となった。冬に沢水が凍り付き、太ければ太いほどその年は豊作になるといわれている。たろしの滝を良く知る地元保存会メンバーの農家に聞くと今冬は比較的暖かい日が続き、1月29日につららが落下。2月初旬にも再度落ちてしまったという。こういつ年は冷害に気を付けなければならないといった話もあるが、これは神のみぞ知るところだ。



本年のたろしの滝



通常のたろしの滝の測定風景

また、年明けから今日まで除雪作業の出動回数は両手で余る回数しかないといった想定外の「雪なし貧乏」が冬の除雪作業に従事する方々の生活を苦しめている。年明けの降雪は雪の温度が高い場合が多く、3月14～16日にかけて北海道・東北・関東・北陸・山陰地方で広範囲に渡り降雪に見舞われたものの積もるような根雪になることはなく直ぐに溶けてしまう状況となっている。雪がありすぎるのもどうかと言えるが、なさ過ぎるのもどうか、といった悩ましいところだ。昨年の春先は降雪量が少なく秋田や福島会津、栃木県北等で春先の水不足により水稲の作付が出来ずに大豆に転換した、または用意していた苗が植えられずに枯れてしまい、種子を播き直したといった事象が頭をよぎる。この雪不足でダムの貯水を早々に始めたといった所もあるようだが、山には雪が少なく、田んぼには雪が被っておらず土肌が見えている。その光景に危機感を感じてしまうのはスキーやスノボを楽しむ方々達だけではない。昨年の新潟では水稲の早生品種の出穂期にフェーン現象に見舞われた影響で早生品種のつきあかりの1等米比率は11.5%、主力のコシヒカリは26.6%となってしまった（令和1年12月31日検査結果　農水省令和2年1月31日発表）。精米されたコメの見た目の悪さで白米を販売する米業界では消費者からクレームを受ける事が多いなど厳しい対応を強いられている。まさに米どころにおいて温暖化の影響を受け始めている事が想像出来よう。気象庁の長期予報によると、例年よりも3月以降から7月までにかけては平年より温暖でまた、梅雨時期には局地的に集中豪雨に見舞われる事が予想されている。さて、令和2年は農作物にとってどのような年回りになるのか、平穏無事で豊作となることを祈念したい。

THE MAC JOURNAL 2020年3月25日号

農業関連視察　in 北陸

株式会社上野（栃木県特約店）主催の上野睦会が富山県・石川県にて開催された。2年に1度、県外の農業に関係する視察を行う行事があり、協賛メーカーが持ち回りにて視察場所を決定する。今回の視察地は富山県の貝化石肥料を生産するメーカーの工場と採掘鉱山、石川県の世界農業遺産白米千枚田と平家を子孫とする国内最大級の木造民家の豪農邸宅を視察した。

富山県高岡市から小矢部市にかけて良質な貝化石が産出される。遡ること昭和25年に貝化石は肥料として有効活用の検討が始まり現在に至る。現在、同地区に貝化石肥料を製造するメーカーは4社あり年間3.5万トンほど全国各地に土壌改良資材として供給されている。国内では他地域でも貝化石が産出されるところはあるのだが、成分と品質が安定しているのは同地区産であり、メーカーと販売店の努力もあって根強い人気を持つ土壌改良資材だ。鉱山を視察して気付いたのだが前日大雨が降ったにも関わらず、大きな水たまりがなく水はけの良い事が伺えた。貝化石肥料には孔隙があり通水性に富んでいる証明だという。また、石灰岩を主体とする鉱山では岩石はアルカリのため法面には草木は生えにくい筈なのだがこの鉱山では雑草が生えているのが興味深い。メーカー担当者の話では、貝化石肥料は土壌の酸度矯正力において他の苦土石灰類よりも長く継続して効果を発揮するそうだ。また、鉱物資源は豊富であり成分も低くなっておらず品質も安定しているとの事で他産地のものよりは機能性の面において優位であるようだ。富山県産の貝化石をまたひとつ深く知る事が出来た。

次に石川県輪島市にある世界農業遺産・国指定文化財指定、白米千枚田を視察した。総面積は40,051㎡、1638年に板屋兵四郎によって水路が整備され名前の通り1004枚の田んぼが連なり日本海に面する自然の形状を活かした棚田となっている。同地は能登半島の観光地立ち寄りスポットとしても有名となっているが、日本農業の原風景であり日本農業の聖地とも謳われている。愛知県立安城東高等学校が昭和57年から平成3年まで当時耕作放棄地として目立つ千枚田を勤労体験学習として草刈作業を行い、その活動は「草刈十字軍」として棚田の窮状が全国に知られ景観保全活動に繋がったとの事。水稲の収穫が済んだ秋から冬にかけては夜間にLED照明が点灯され幻想的な風景となっている。また、冬期は日本海から吹き付ける雪景色はまさに絶景だ。現在ではオーナー制度のもとコシヒカリと早生品種の能登ひかりが栽培されており景観保全に一役買っている。山間地農業が荒廃していく中でこのような取組は日本ならではの動きである。最後に同市にある上時国家（かみときくにけ）を紹介したい。建物は国指定重要文化財、庭園は名勝となっている。平清盛の義弟である平時忠を祖先とし、源平合戦で平家が滅亡した際に能登の地に配流となった時に遡る。その子時国が近隣の村々を統治した時から始まり、21代当主左門時輝が江戸時代に天領の大庄屋を務めた頃に現存する豪華な屋敷を築いたとされる。建物は近世木造民家のひとつの到達点を示すと評され重要文化財に指定されている。まんが日本昔ばなしに出て来る庄屋さんの屋敷さながらの構えとなっている。豪華絢爛の佇まいに圧倒されるばかりで土間には農作業道具も展示されていた。木製唐箕や杵臼があり江戸時代の農作業道具も今では代々続く農家の蔵に眠っていそうな代物で興味をそそられる。普段の営業担当外の地域であり新鮮身もあった農業関連視察であった。（東京支店）

新型コロナウィルスの感染拡大に収束が見えず、東京オリンピックも延期になりました。当社では継続して時差出勤や在宅勤務を行っております。お取引先様にはご迷惑をお掛けすることと思いますが、今しばらくご理解賜りたく宜しくお願い申し上げます。

編集事務局：南部、助川
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp　URL http://www.mcagri.jp